

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成22年1月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0177400322		
法人名	医療法人 アンリー・デュナン会		
事業所名	グループホーム 忘れな草		
所在地	〒074-0004 深川市4条12番7号 (電話) 0164-26-2611		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年12月14日	評価確定日	平成21年12月29日

【情報提供票より】 ( 21年10月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 23 人非常勤 3 人, 常勤換算 25 人	

### (2) 建物概要

建物構造	RC 造り	
	3 階建ての1階	～ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円		
その他の経費(月額)	水道光熱費 18,900 円 暖房費 3,150 円 (11月～4月)		
敷 金	有 ( 円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,365 円		

### (4) 利用者の概要 ( 10 月 31 日現在 )

利用者人数	27 名	男性 5 名	女性 22 名
要介護 1	5 名	要介護 2	4 名
要介護 3	8 名	要介護 4	5 名
要介護 5	4 名	要支援 2	1 名
年齢	平均 85.9 歳	最低 74 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	深川第一病院・深川第一病院歯科・口腔外科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は開設して7年目に入り運営基盤も堅固なものになっている。市街地の中心にあるが、広い敷地の中に建っており静かな環境にある。母体組織の病院の移転により、その建物の改築により同事業所を開設するに至っている。母体組織と医療面、行事の参加など協力体制が確保されているのも心強い。開設以来職員の退職者もほとんどなく働きやすい環境にある。いつも利用者本位の立場に立ち、のんびりと、尊厳を守る暮らしを続けることを、管理者、職員が積極的に熱意を持って支援している。管理者、職員の信頼関係も厚く、職員が一体となって利用者のよりよい暮らしの実現に取り組んでいる事業所である。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回は専門的観点から栄養士による栄養バランス摂取カロリーのアドバイスを受ける機会の確保で、協力病院の管理栄養士による点検がされており改善されている。災害対策で具体的な避難誘導策の検討でレスキューマットの設置。地域との協力体制については更なる取組みに期待したい。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価は日々のケアを振り返る視点ととらえ、3ユニット全員が自己評価項目に取り組み、チームリーダーが中心となって協議、検討し作成している。評価後もよりよいケアに結びつけるように取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1度実施され、市職員、利用者、家族代表、町内役員、事業所職員が参加されている。会議では事業所の活動状況などやケアの提供などについての報告をおこない、内容は会議録に詳細に記載されている。そこでの意見をサービス向上に活かせるように取り組んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、要望については運営推進会議や、家族の来訪時に日常的な報告や連絡を通じて信頼関係を大切にすることで、苦情など言いやすい雰囲気作りに配慮している。また、玄関ホールに苦情相談窓口と、対応手順が表示されている。出された意見等については、会議を開いて検討し運営に反映させている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に利用者全員が加入し地域の一員として受け入れられおり、近くの家からお花をもらったり、散歩時にあいさつを交わすなど気軽に声を掛け合う関係ができています。事業所の行事には地域の方の参加や、近隣の託児所から幼児が遊びに来るなど交流をもっている。地域とのふれあいを多く持てるよう更なる地域行事への参加に期待したい。

## 2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の基本理念を掲げ、また、パンフレットの中にも事業所が目指している指針などがわかりやすく示されている。その人らしく暮らし続ける環境、地域とのふれあいを大切にした理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目の付きやすい玄関ホールやスタッフコーナーに掲示し、常に意識づけが出来るようにしている。また、朝の申し送り時に理念を復唱共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に利用者全員が加入している。散歩時にあいさつを交わすなど気軽に声を掛け合う関係が出来ている。また、事業所の行事には地域の方の参加や、近隣の託児所から幼児が遊びに来るなど交流を持っている。	○	町内会の加入や、行事への参加はあるが、地域とのふれあいを多く持てるよう更なる地域行事への参加に期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日々のケアを振り返る視点ととらえ、3ユニット全員が自己評価項目に取り組み、チームリーダーが中心となって協議し、検討を重ね作成している。評価後もよりよいケアに結びつけるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度実施され市職員、利用者、家族代表、町内会役員、事業所職員が参加されている。会議では事業所の活動状況などを報告し、内容は会議録に詳細に記載されている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月2回ケア会議などで情報交換、連携することが多くあり、管理者を中心に市の担当職員と相談できる良好な関係が築かれている。また、ヘルパー実習受け入れ、高校生の授業の一環として職場体験の受け入れを、行うなど事業所の機能の活用を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月事業所便りを発行し家族へ郵送している。利用者の写真を掲載し、個別にコメントを添え、日々の生活状況、健康状態、金銭管理等を詳細に報告している。また、ホームページに生活様子を公開している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望については運営推進会議や、家族の来訪時に気軽に言ってもらえるような雰囲気作りに配慮している。また、玄関ホールに苦情相談窓口と、対応手順が表示されている。出された意見等については会議を開いて検討し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来退職、異動がほとんどなく、職員は利用者との馴染みの関係を築いている。今年初めてユニット間で、1名ずつの移動を行ったが利用者にはスムーズに受け入れられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成が、質の高いケアにつながることを理解しており、積極的に内部研修、外部研修の計画、参加を進めている。職員は研修受講後、伝達を兼ねた勉強会で報告し職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム協議会の研修会、同業者主催の講演会に出席、地域の同業者と交流する機会も多く、情報交換や知識の研鑽を行い事業所のサービスの質の向上につなげている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用できるように、家族と相談しながら見学や体験入居をしながら事業所の雰囲気に馴染めるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の関わりの中で、一緒にテレビを見たり、ソファーに座り昔話を聞いたり、本人の体調に合わせ、食事の準備、食器拭きなど利用者と共にしながら学ぶことも多く、共に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々利用者との関わりの中で、会話、動作、表情から本人の希望や意向を大切にしながら把握に努めている。利用者一人ひとりの個性を大切にしながら、その人らしさを尊重し支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎にアセスメントを行うとともに、利用者の日々の生活場面から得た意向や、家族の要望、職員からの情報を考慮しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に記載されている個別の期間を目安に評価を行い、計画的に見直しが行われている。利用者に変化が見られた場合には、本人、家族、職員間で話し合い、速やかに対応するような体制がとられている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関への通院、自宅への外出支援など柔軟な支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にかかりつけ医への受診支援を行っている。また、週1回の訪問看護師による健康管理を行い、医療の連携と家族への報告を適切に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や、終末期に向けた支援はマニュアルを作成しており、契約時の段階から事業所の方針や事業所の出来得ることを本人、家族に説明している。早い段階から家族の意向を伺い、話合って方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に利用者一人ひとりの意思と尊厳を大切に、やさしく声掛けや敬意のある対応に配慮している。記録は事務室に保管され、個人情報の管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、利用者の希望を大切にしながら、生活のペースを乱すことなく押し付けにならないよう出来るだけ個別性のある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の大きな楽しみとしてとらえ、利用者の嗜好に配慮した献立となっている。機能低下している利用者もおられるが、本人の食べる意欲を大切にしながら自力でゆっくりと食事ができる支援に努めている。食事の後片付けなども職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて毎日入浴できる体制である。仲の良い利用者同士が2人で入浴を楽しむなど、利用者の希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、家族からの情報をもとに生活歴、身体状況などを念頭に置きながら縫い物、掃除、洗たく物のたたみなど、利用者の意欲や希望など力量に合わせた楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調などを考慮しながら、散歩、買い物など日常的に外気に触れる機会を多く持てるよう支援している。隣接している家の庭に果樹があり(持ち家の了解のもと)時季ごとに果物狩りをするなどの支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はせず鍵のない自由な暮らしを大切にしている。玄関にセンサーを設置し外出を察知した場合は職員が寄り添って安全確保に努めている。夜間は防犯上の問題もあり施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防火管理者の指導のもと避難訓練を実施している。スプリンクラー、自動火災報知器、自動火災通報装置、レスキューマット、AEDを設置している。	○	3階建ての構造上、災害時は地域の協力が不可欠と考えられる。運営推進会議のなかで町内の役員さんと協議していただき地域の協力体制に期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の管理栄養士さんに摂取カロリーの点検をしていただきながら年齢や疾患に合わせた栄養バランスや水分摂取量に配慮している。摂取量など詳細に記録されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広くゆったりとしていて車椅子での移動がスムーズに出来るようになっている。利用者が好きな場所でゆったりとそれぞれに過ごせる工夫がされている。台所から食事の準備の様子、食器の洗う音が聞こえ生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、備え付けのベッド、戸棚つけテーブルやロッカーなどが設置されている。家族の写真、ボランティアの方に教えて頂いている絵手紙が壁に多数貼られており、本人が安心して過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。